富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山湾における海棲哺乳類の記録（2010年）

著者	南部 久男, 関 東雄, 真柄 真実, 山田 格, 大田 希生, 藤田 将人
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	34
ページ	141-144
発行年	2011-03-15
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=933

富山市科学博物館研究報告第34号, pp.141-144；(2011)

短　報

富山湾における海棲哺乳類の記録（2010年）*

南部久男[1)]，関　東雄[2)]，真柄真実[3)]，山田　格[3)]，
大田希生[4)]，藤田将人[1)]

[1)]富山市科学博物館，〒939-8084富山市西中野町1-8-31
[2)]〒935-0032富山県氷見市島尾214，[3)]国立科学博物館動物研究部，〒169-0073東京都新宿区百人町3-23-1，[4)]北陸水中映像，〒930-2241富山市四方西岩瀬160

Stranding records of marine mammals in Toyama Bay, Japan, in 2010.

[1)]Hisao Nambu, [2)]Seki Haruo, [3)]Manami Makara, [3)]Tadasu K. Yamada, [4)]Mareo Oota, [1)]Masato Fujita,

[1)] Toyama Science Museum; 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan, [2)]214 Shimao, Himi-shi, Toyama, 935-0032 Japan, [3)]National Museum of Nature and Science, Department of Zoology; 3-23-1, Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0073, Japan, [4)]Hokuriku underwater pictures; 160 Yokata-nishiiwase, Toyama-shi, Toyama 930-2241 Japan.

富山湾（富山県側）の鯨類については2002年から漂着調査等が継続的に行われ（南部2009；南部ら,2002, 2003,2004,2005,2006,2007,2008,2010)、海上での目撃記録も報告され（関ら,2005)、鰭脚類（オットセイ）も記録されている（南部ら,2000)。本報告では、2010年に富山湾（富山県側）で確認した海棲哺乳類（鯨類、鰭脚類）について報告する。

富山湾で確認された海棲哺乳類

2010年（1～11月）の富山湾での鰭脚類、鯨類の確認状況等は下記の6例6個体であり、確認地点を図1に示す。

食肉目 Order Carnivora
　アシカ科 Otariidae
　　オットセイ *Callorhinus ursinus*

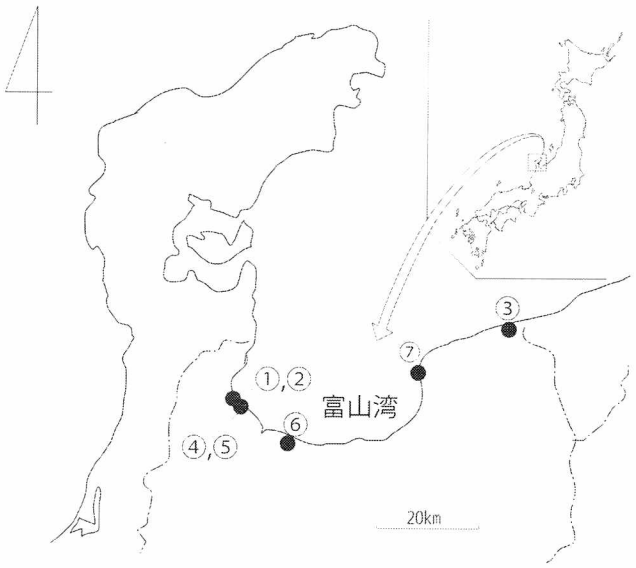


図１　富山湾の海棲哺乳類の確認地点. ①氷見市窪、②氷見市島尾、③朝日町宮崎、④・⑤高岡市太田、⑥射水市海老江、⑦黒部市荒俣、

場所：氷見市窪及び島尾（図１, ①,②)
確認日：2010年3月10日～12日
状況：以下は氷見市水産漁港課の職員及び筆者の1人関の観察（3月11日12:30～15:30）による。平成22年3月10日（水)、午前10時30分頃氷見市窪の松田江浜で、市民によりオットセイが発見され、氷見市水産漁港課職員により確認された。オットセイは波打ち際から10～15m のところにいたが、10時50分頃、海に戻っていった。翌日の3月11日（木）午前9時30分頃、上述の地点より約1.1km 南の氷見市島尾地内で市民により波打ち際から数メートルのところでオットセイが発見されたがほとんど動かなかった。前日発見されたオット



図2　氷見市島尾のオットセイ3月11日関東雄撮影.

＊富山市科学博物館研究業績第415号

セイと同一個体かどうかは不明である。同日の日中、夜から翌日の3月12日（金）にかけて氷見市水産漁港課の職員により監視が続けられた。3月12日午前10時30分頃、オットセイは海に向かい動き出したが波打ち際で動かなくなった。午後3時20分、保護のため、車で新潟市水族館に移送され、午後7時20分頃同水族館に到着した。3月13（土）午前8時35分頃新潟市水族館の職員により死亡が確認された。
性別・計測値等：♀、体長1.1m、体長30kg。（図2）

クジラ目　Order Cetacea
　マイルカ科　Delphinidae
　　カマイルカ　*Lagenorhynchus obliquidens*

１例目
場所：朝日町宮崎漁港（図1,③）
確認日：2010年5月22日～26日
状況：2010年5月22日早朝にイルカ１頭が宮崎漁港に迷い込み、26日午前6時頃まで漁港内に留まっていた(5月26日付けの北日本新聞、同日の読売新聞、5月27日付けの読売新聞による)。5月26日に北日本新聞に掲載された写真を鑑定した結果カマイルカであった。

２例目
場所：高岡市太田雨晴海岸（図1,④）
確認日：2010年5月30日
状況：筆者の一人、関が5月30日午後5時45分頃、波打ち際から約3m上の砂浜で発見した。
性別・計測値等：♂，体長85cm（冷凍）。（図3）
備考：新生仔と思われる。

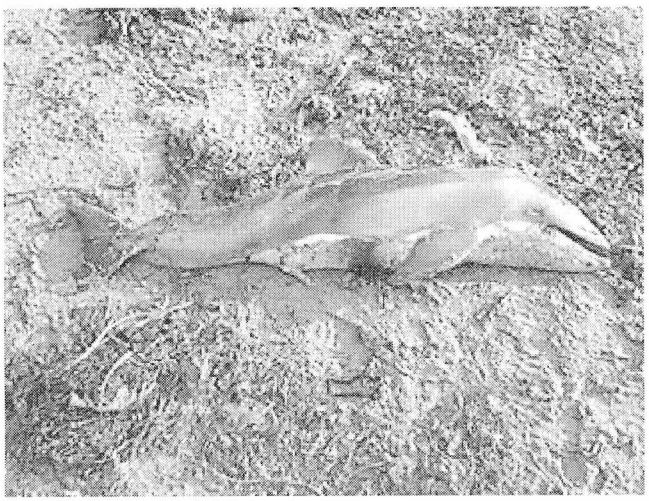


図3　カマイルカ（高岡市太田）関東雄撮影.

３例目
場所：高岡市太田の海岸（図1,⑤）
確認日：2010年6月18日
状況：6月18日（金）地元住民発見。6月21日（月）高岡土木センター海岸班職員が現地確認し、筆者の一人、南部が調査した。
性別・計測値等：雌雄不明。体長187cm（欠損していた尾部を除く）。（図4）

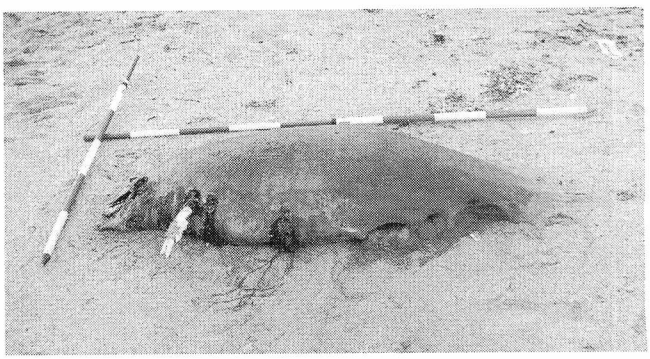


図4　カマイルカ（高岡市太田）

備考：全身骨格は富山市科学博物館で、胃は国立科学博物館で保管している。

４例目
場所：射水市海老江海浜公園内の砂浜（図1,⑥）
確認日：2010年7月4日
状況：7月4日（日）地元住民が海岸清掃時に発見し、高岡土木センター海岸班職員により確認された。7月5日筆者の一人、南部が調査した。波打ち際で漂い、内蔵が飛び出た腐乱死体であった(図5)。
性別・計測値等：雌雄不明。体長210cm（欠損していた尾部を除く）。（図5）

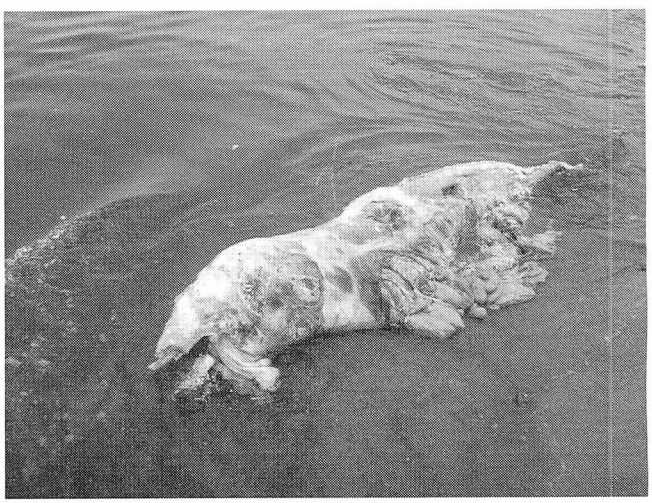


図5　カマイルカ（射水市海老江）大田希生撮影

備考：全身骨格は富山市科学博物館が、胃は国立科学博物館が保管している。

マイルカ科　Delphinidae
ハンドウイルカ　*Trusiops truncatus*

５例目
場所：黒部市荒俣海岸（図1,⑦）
確認日：2010年8月1日
状況:8月1日（日）地元住民発見。黒部市市民環境課職員が現地確認した。8月2日（月）に筆者の一人藤田が調査を行った。
性別・計測値等：雌雄不明。体長約180cm（黒部市市民環境課職員測定。腐敗激しく不正確）。（図6）
備考：頭骨は富山市科学博物館が保管している。

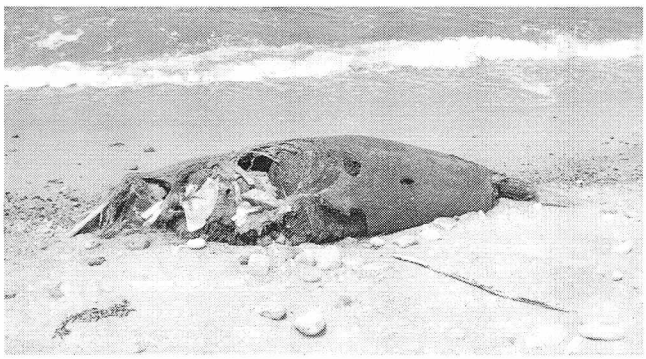


図6　ハンドウイルカ（黒部市荒俣）（黒部市市民環境課提供）

2010年は、１科１種の鰭脚類１個体と1科2種5例5個体の鯨類（漂着4例4個体で、目撃が1例１個体）が確認され、いずれも富山湾では既知種である。

オットセイは、富山湾では、1999年5月8日に今回の最初の発見地点とほぼ同じの氷見市窪の松田江浜でオス（体長89.3cm）の漂着死体が確認されている（南部ら, 2000）。

鯨類では、カマイルカが5月22日～7月1日にかけ、4例4個体が確認された（1例は目撃）。筆者らの調査では、2000～2009年に、富山湾で21例のカマイルカの漂着・目撃が確認されているが（南部ら,2009,2010）、月別内訳は、1月1例、2月1例、3月1例、4月と5月はそれぞれ8例、6月が2例であり、今回の7月の漂着は、最も遅い月の記録であった。

今回体長85cmのカマイルカの漂着個体が確認された。岩崎（1997）は日本近海で確認されたカマイルカの出産時の体長は80～100cm、Brownell et. al.（1999）は、出産時の本種の平均体長は91.8cm、Jefferson et.al.（1999）は、太平洋の本種の出産時の体長は92～100cmと述べ、今回の個体は体長などから考察すると、新生仔であると考えられる。また、2005年6月21日に、氷見市で体長108cmのカマイルカの漂着死体が確認されているが（南部ら,2006）、この個体も生まれて間もないものと推察される。

ハンドウイルカは比較的記録が少なく、2000年2月25日に氷見沖の2箇所で群の目撃記録が、2001年2月25日に氷見市で1死亡個体の漂着、2009年3月3日氷見市で1死亡個体の漂着記録がある程度である（関ら,2005;南部ら,2002,2010;真柄ら,2010）。

謝辞

情報を提供していただき、調査にご協力して頂きました、氷見市水産漁港課、富山県高岡土木センター工務第二課海岸班、黒部市市民環境課、岩尾一氏（新潟市水族館）に厚くお礼申し上げます。

参考文献

Brownell, R.L., W.A. Walker and K.A.Forney. 1999. Pacific white-sided dolphin *Lagenorhynchus obliquidens* Gill, 1865. pp. 57-84. in Handbook of Marine Mammals, Vol. 6: The Second Book of Dolphins and the Porpoises (S. H. Ridgway and R. Harrison). Academic Press.

岩崎俊秀, 1997. カマイルカ.pp.410－413, 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅳ）, 水産資源保護協会.

Jefferson, T.A., M.A. Webber and R.L. Pitman. 2008. Pacific White-sided Dolphin *Lagenorhynchus obliquidens* Gill, 1865. pp. 194-197. in Marine Mammals of the World, A Comprehensive Guide to their Identification. Academic Press.

真柄真実, 栗原望, 山田格, 南部久男, 石川雄士, 2010.富山県氷見市に漂着したハンドウイルカ（*Tursiops truncatus*）富山市科学博物館研究報告, (33) :109-112.

南部久男, 田島木綿子, 荻野みちる, 倉持利明, 山田格, 田中豊, 2000. 富山湾氷見市の海岸に漂着したオットセイについて. 富山市科学文化センター研究報告, (23):169-171.

南部久男, 稲村修, 田島木綿子, 倉持利明, 山田格, 2002. 富山湾における鯨類（Cetaceans）の記録（2001年）. 富山市科学文化センター研究報告, (25)：129-132.

南部久男, 西岡満, 田中豊, 太田希生, 2003. 富山湾に

おける鯨類・ウミガメ類の記録（2002年）. 富山市科学文化センター研究報告, (26)：145-147.
南部久男, 西岡満, 関谷伸一, 山田格, 太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録（2003年）. 富山市科学文化センター研究報告, (27)：75-78.
南部久男, 田島木綿子, 新井上巳, 山田格, 田中豊, 大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録(2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 91-94.
南部久男, 山田格, 2006. 富山湾における鯨類の記録(2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29)：113-114.
南部久男, 石川創, 山田格, 台藏正一, 大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録（2006年）. 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
南部久男・石川創・山田格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録（2007年）. 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.
南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録（2008年）. 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
南部久男, 真柄真実, 栗原望, 山田格, 関東雄, 台藏正一, 石川雄士. 2010. 富山湾における鯨類の記録(2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
関東雄, 南部久男, 山田格, 石川創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28): 113-122.